



配布した苗木は各家に植樹される

ケニア北部ロヤングラニ地区における半砂漠地域での植林緑化活動

植樹した苗木の活着率

80%

小学校や水源地等に植樹する耐乾性の多目的樹木の苗木数

2,400本

活動の全体目標に対する達成度

70%

課題

危機的な貧困状態にある遊牧民に対し、アグロフォレストリーを含む緑化推進活動を地域に定着させ、住民が食糧・水を自給することで生活環境の向上を図る。

活動内容

- ロヤングラニ地区の村や学校等で、砂漠地帯でも生育出来る苗木約2,400本の植樹を行った。
- 食糧確保のため、タイタス小学校にデモ農園をつくり野菜づくり研修を実施した。
- タイタス小学校に給水施設からの給水管を設置することで、水やり作業の軽減を図った。
- キワンジャ村、ナガン村、エルモロ村で地域開発会議、トゥルカナHIV/AIDS感染者団体とタイタス小学校で開発会議を実施。



畑に野菜の種をまく生徒達

今後の課題

村は依然として危機的な貧困状態にあり、食料不足は解消されていない。そのため、継続した植林活動を通して、人間と動物が生きていける環境を再生することが求められている。

成果と工夫したポイント



成果

- ・児童や地域住民の約80%の緑化意識が向上した。
- ・児童と教師計800人がアグロフォレストリー活動に参加した。
- ・6部族の共通目標である緑化活動を通じて、団結心、信頼関係が構築された。

工夫

アグロフォレストリーは講習と合わせて参加型の実習を行ったため、参加者の積極性が増した。